

R.F.C

リスク・カウンセラー & ファイナンシャル・カウンセラー

Information & Report

2004.10.19 Vol.2004-10

自殺した社長の法人契約の保険金を親戚に返済したが...

官からの受注の為に... 粉飾決算で「Aクラス」を死守!

神奈川県●市の町で戦後間もなく創業した土木建築関係の会社。創業当時は県下でも陸の孤島とまで云われた辺鄙な町だったというが、今では幹線道路もできあがり数年後には新たに駅ができる計画もあるという。小規模ながら地元でも有数の企業として信頼があった。官の仕事をこなすだけで十分なほどの売上があり、常に「Aクラス」の評価を受け順調に推移してきた。

十五年ほど前、先代社長が亡くなる前に「自分の代で会社を清算して残った資産で余生を楽しむように」と言い残していたが、バブルの絶頂期であった当時このこと、その妻も社会の勢いから抜けることができなかつたようだ。

後を継いだ妻が代表取締役となり経営してきたが、行政の予算圧縮により官からの発注が急激に減少。しかし先代からの従業員を解雇することもできないまま殆どの蓄えを事業に注ぎ込んでしまった。それには経常利益を出していることが必須条件のようなものだ。会計事務所には

【ちよっこ歳時記】

いつの間にか頬にあたる風が冷たいな...と感じてしまう。キンモクセイの芳香がたまたまう生垣の小路を通り抜け、ふと見上げると繁葉の間から太陽の陽を求めて飛び出した丸い球が... たわわに実をつけた果樹を覗いて歩くのはとても楽しい。

まだ青いけど拳より大きくなったカリン、小枝が撓るほどすっかり熟した柿、少しだけ紅味を帯びてきた沢山の姫リンゴ、まだまだ深緑色で酸っぱいようなキンカン、今にも種が弾け飛びそうに垂れる真っ赤なザク口。まさに自然界は実りの秋だ。あと二週間もすればどの果実も完熟して香りを放つたのだろうか、あちこちから聞こえてくる小鳥たちのさえずりも、ひとときさわやかだっているように感じられるのは気のせいだろうか。(細野)

虚偽の伝票を提出したりして架空の黒字決算を続けていたが、粉飾決算にも限界がみられ次第に実態が暴露してきた。

今を乗り切れば何とかなる。夫が築き上げた事業を何とか継続させたいと云う気持ちで頑張りつづけた。親戚や親しい友人達から五百万円、一千万円と借金をして、最後には従業員からも借金(これらの借入を恩借りという)をする状況になっていった。しかし、ついに約束手形が不渡になってしまった。

恩借り返済の遺書を残して... 社長が自殺した!

それでもなお、今後のことを考えると下請け会社の協力がなければ受注ができない。親戚から更に借金をして下請けに渡っていた不渡手形をすべて回収し、今後の協力を取り付けたことができた。しかし、期待していた新たな入札を落とすことができず、事業の見通しがつかなくなり、間もなく遺書を残して自宅の物置で自ら命を絶つてしまったのだ。

遺書には「自分の死亡保険金が入るから、お世話になった親戚と近所の人達から借りた借金の返済に当てて欲しい」と書かれていたのだ。不測の事態で会社も

出来るだけ保険料を安くかつ掛捨てでない生命保険の変額終身(終身型)を提案され契約した。その後、転職してから収入も減少し保険料払込み困難になったが、保険契約だけはそのまま継続したいと思い、知り合いの保険FPに相談したら「減額」「払済保険」「延長定期保険」等の変更方法選択を教えてもらったので保険会社の営業にその手続きをしてもらった。暫くは保険料をキチンと支払っていたのですが、収入の激減で保険料の支払いが3ヶ月間支払えなくなっていた。ある日、保険会社から「自動延長定期保険」に変更

された旨の通知書が届いた。再度、保険FPに相談してみた。何で「自動延長定期保険」に勝手に変更されたのが理解できなかったからだ。友人の保険FPに同席して

もしも、「保険料」が払えなくなった時は!

もらい説明を受けたが、保険FPのいう商品の変額保険(終身型)について知識不足であったようだ。幸いにして、今回の「自動延長定期保険」は変更後三ヶ月以内であり、(7、8、9月分)の保険料を払込みして元の状態にするこ

とができたが、(但し、特約は消滅された)契約変更手続きの時に保険FPの友人に立ち会っててもらっておけば良かったと思っ

【保険FPの独り言】

変額保険加入者は数多くいるでしょう。「一般終身保険」や「養老保険」ならび「長期平準定期保険」と「変額保険」の違いを理解して加入されることと、生活環境の変化に対しては保険内容を見直すことも大切なので、保険外務員とは日頃からコミュニケーションをとっておくことがポイントと

(保険FP 山中三佐夫)

家族も慌ただしい状況の中、専務を代表取締役に選任し死亡保険金を受け取る段取りをすすめることとなった。借入金債務の7割を占める取引銀行に入金すれば、即、借入金と相殺となってしまふので新規の銀行口座を開設。一週間後に保険金口座に振り込まれる段取りとなった。

新社長と家族が話し合った結果、あと三回やってくる手形決済の資金繰りは無理だと言うことで、経営を継続する見通しを断念。保険金は故人の遺志に従って恩借りの借金返済に充て、一段落したら会社を整理することになった。

親戚や知人への恩借り返済は... 詐害行為で否認される!

会社を整理するため弁護士に相談することとなったのだが、恩借りの返済が問題であると指摘された。任意整理の場合、特定の債権者へ優先して返済したことが詐害行為にあたり、他の債権者から取り消しされる行為であるという。

破産の場合、それは破産法・第七二条【否認できる行為】に抵触するという。親戚や知人に返済したことは明らかに「偏頗(へんぱ)返済」に該当するとい

この事例の場合、①他の債権者を害する行為と知っていて返済した②破産者が支払いの停止(不渡手形)をした後に返済した③に各々抵触する。

故人が遺書として残した遺志に従って「自分の命に代えてまで返済したかった」という想いを実行に移すことは遺族として当然の行為であることは理解できたとしても、法の下では「債権者平等の原則」により冷酷にも否認される。この非情な事実を遺族に納得してもらう為の時間はとても辛いものがあった。

同条・第五項の記述に「破産者が支払いの停止若しくは破産の申立ありたる後又は其の前六ヶ月内に為したる無償行為及び之と同視すべき有償行為」とあるが、これを六ヶ月以上経ていれば良いと解釈するのも余りにも軽率だ。

よく言われる「会社の整理は土壇場で決断しなさい余力のある時に決断しろ」「早期発見と早期対策」の提言は納得できる言葉だ。

それにしても「会社を命に代えてまで守ると考えるより、恩借りをせず、もつと早い段階で会社を整理する選択肢があったはず」なのだが... **命の重さって? 会社を存続させることって? 何だかこの上なく哀しい切ない事件であった。**

「喜・怒・哀・楽」のリスク・カウンセラー……

最近でもリスク・カウンセラーと印刷した名刺を差し出すと、「へえ～初めて聞いた…」 「どんなことをする仕事なんですか…？」と云われることが多い。手短かに事例などを話してみる。「世の中に絶対に必要な仕事ですよ～」「でも、どうやって仕事ははいて来るの…?」「リスク・カウンセラーの仕事って大変なんですよ～!」と、労いの言葉をかけて下さる方の顔には、その方の知人のだれかの顔を思い浮かべているような表情がある。恐らく、辛い局面に苦しんでいた人の顔が目につくのだろう。あの時に知り合っていたら良かったのに…と、そして最後に「頑張ってください…」云っていただけたりすると仕事に対する責任と意欲が沸々と湧き上がってくる。そして、相談者と同じ目線で「喜・怒・哀・楽」を共感できた瞬間の、カウンセラーとしての心地よい光景を思い浮かべて「こんな仕事をしている人間が居ることをどこかで思い出して下さい!」「頑張ります!」と言って自己紹介を終えています。

リスク・カウンセラー奮闘記

日まで慕って近づいてきた人がサッと離れて行き、はては誹謗や中傷を声高々に言う有様だ。まるで関わっていたことがマイナスであったかのように言い、これ以上関わりたくないと言うことなのか。

問題を抱えて相談に来る人に言っているのは「今までの関係していた人達のリストに、今後の付き合い方を○と×と△の印で分類しておいてください。今まで自分が考えていた人間像がかなり鮮明に見えてくるから…」と。そう時間が経たないうちに…今まで自分が思っていたのと随分食い違っていることに気がつくからです。

そうです。自分が△や×を付けた人の中に今まで自分が気がつかなかった理解者が必ずいるのです。高い視野から自分を見守ってくれた人がいたのです。それは身内でもない。親友でもない。自分が取っ付きづらくて遠ざけていた人の中にその人がいたのです。自分は独りぼっちではないと気づくと、幸せな自分に気づき…一気に哀しみが遠ざかります。

楽しみは…再起へのスタートとなって…

眼の鱗が取れるという表現があるが、トラブルに直面しても物事の真理や人心が見えてくるという。そして、新たな発想がドンドン湧いてくるのだ。問題解決の流れが読めるようになるし、相手が次にどのように対応しようとしているのかさえ読めるようになる。こうすれば…相手はどうするか。相手があえてきたら…こうすればいい。今まで、自分はどんな眼で人を見て付き合ってきたのだろうかかと反省させられる場面がある。でも、見えなかったものが見えるようになる息詰まっていた気持ちがスーッと楽になる。不謹慎だが、まるでゲームを楽しんでいるようにさえ思えるようになる。

そこには再起へのヒントが隠されているから思う存分その時間を楽しみ心構えが大切だと思う。飾らない自分を、裸になった自分を、本音の自分を、胸襟を開いた自分を精一杯表現して人と接したい。相手が喜んでくれることは何か…?あの人の役に立てるには自分はどうすればよいか…と。このとき再起へのスタートは確かな一歩を踏み出している。

喜びは…ラポールができた瞬間に体感できる…

いざ事件の現場に入ると作業は容易ではない。でも、相談者からの無理難題ばかりの本音の言葉をぶつけられるようになればシメタものなのだが、そういう状況になるまではかなり時間が掛かる。5時間、10時間かかるのはザラで30時間を超えることもある。本音が聞き出せなければ仕事が進まない。情動と理性とが渦巻く中で、その瞬間を見逃さないようにじっくりと待っているのだが、リスク・カウンセラーにとってはこの時間が真剣勝負なのだ。

長い時間をかけて傾聴していて、相談者の目がひときわ輝くように感じられる時が待っていた瞬間だ。第一の関門をクリアできた時なのかも知れない。その心の扉が開いた瞬間からは相談者の口から本音の言葉が…。ラ・ポール(相互信頼)ができあがった。嬉しい。握手を求められて二人して喜び合う。この素晴らしい瞬間は言葉で言い表すことができません。

怒りの気持ちは…立ち直りの底力に替えて…

パニックとなっている時には、誰か他人のせいで自分が苦しまなければならない…という気持ちばかりで、混乱する自分の気持ちを静めるために、その標的となるものを見つけてしきりに攻撃の言葉を口にする。主に過去の言動や周辺の出来事などを恨みや憎悪の気持ちをあらわに表現することさえある。

しかし、時が経ち、やや穏やかな気持ちになってくると徐々に過去の問題が見えてくるようだ。むしろ、冷静に実態の検証ができるようにさえなってくる。多くの人々と接してきたが、ここの段階で冷静に検証できた人の殆どが再起できているから、怒る心を立ち直りの底力に替える大切な局面なのだと思う。

哀しみは…現実を認識できると遠ざかる…

問題の渦中にいて何がなんだか分からないうちは、その混乱が早く沈静化することをひたすら願っているものだ。

しかし混乱が沈静化してくると…ボソソと独り取り残された自分の姿に急に寂しさと哀しみが襲ってくる。これから自分はどうになってしまうのだろう。不安感がいっぱいだ。昨

わたくし自身が倒産という人生の転換期を迎えてから早くも18年が経過した。自分でも「喜・怒・哀・楽」と泣き笑いの日々を繰り返しながら多くの人々と接し、多くのことを教えられ感じたままの反省の想いでもあります。

相続トラブル、家族問題、社内トラブル、事業再生、債務整理など相談の内容は様々だ。思い遣りの心を失い、見栄を張り、人の意見に耳を貸さず、自己主張を通し、短気で直ぐ腹を立てたり…と、原因は慈愛心からかけ離れたところにあるように感じる。**どんなトラブルも原因を掘り下げていくと根っ子が一つに繋がっているように思えてならない。**

もしも、身近に行き詰まり立ち往生した人がいたら、リスク・カウンセラーに相談するように伝えていただきたい。

くどいようですが、辛いままいつまでも悩まず、リスク・カウンセラーに相談して楽になってほしいものです。



5mm位の小さな花卉

水引草

蘇にるにがで公園
咲いて昔は小さな花が園
いたどこの花弁を咲かせた
ような空きの地を踏んで
記憶が隔いて白



赤い花卉の水引草

【ホロニック】

(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する(小学館「カタカナ語の事典」より)

R.F.C Information & Report

発行者 株式会社ホロニクス総研
責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野孟士 DZC05310@nifty.com
〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12 かねだビル7階
Phone (03)5684-0021 Fax. (03)5684-0031
<http://homepagel.nifty.com/holonics>